



(右隻)

4. 小泉檀山筆 輦台渡し図

「霖雨連々として渡津を絶つ 川波田々として流れ隔つこと
 新なり 水神我を憐れんで輦に乗るを許す 暫時貴人と成るを得たるに似る」。長雨で水かさが増したのでこれ幸いと輦台に乗った、今日はちょっとセレブな気分。といったところか。落款に“道中作”とあるが、なるほど白扇に軽妙な筆遣いで、色はポイントに差すのみ。ライブ感がいい。いかにもうれしそうに輦台に乗るのがこの絵の画者、小泉檀山である。

小泉檀山(斐・1770~1854)は下野国(現、栃木県)益子の神職の家に生まれたが、生来絵が好きで島崎雲圃の弟子となり本格的に絵を描くようになる。一方、神官として50歳の時、黒羽藩主大関氏に抱えられるが、その後も作画活動を続けた絵師である。

署名に添えられた語から、この絵は孫の“由”に与えられたことが知られる。「檀山翁墓碑銘」などによると檀山には子がなく、養子をとって、国子という孫娘がいたことがわかっている。この人物との関係はわからないが、親密な繋がりの中で生まれた肩肘張らない佳品といえる。(当館客員研究員 加藤陽介)

【小泉檀山筆 輦台渡し図

(こいずみだんざんひつ れんだいわたしず)

成立 江戸後期

伝来 松室重剛関係史料(当館保管,史料番号120)

大きさ たて23.8cm, 横50.2cm

